

○議長（千葉 薫君） ご苦労さまです。

それでは、一般質問を続けます。

9番、下道議員。

○9番（下道英明君） 一般質問最後の登壇でございます。本日は大変多岐にわたる件名が多うございました。集中力が途切れる時間帯ではございますが、皆さん、いま一度力を振り絞って、前向きなご議論、ご答弁、よろしくお願ひ申し上げます。今回の定例会では、観光振興についてと、3月定例会での町内エネルギー利活用について、後半戦として、この二つのテーマに絞りましてお伺いしてまいります。

それでは、一般質問、通告に従いまして進めさせていただきます。

先般、福井県の大飯原子力発電所が再稼働の作業に入りましたが、ここ北海道では、節電の夏として、北海道電力が7%節電に向けて協力を呼びかけております。最初の質問の関連から入りますけれども、7月23日から9月7日、9月10日から14日の7%以上の節電の協力を呼びかけておりますが、まず、洞爺湖町はどのような取り組みを行うのか、それをお伺いしたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 室田環境課長。

○環境課長（室田米男君） 現在、泊発電所1号機から3号機の運転が停止されておりまして、また、苫小牧の厚真発電所、これが定期検査のために停止をしております。このため、北海道全体で、この夏の電力不足が予想されるとして、北海道電力では道民の皆様に対して、この夏の節電対策をお願いするとともに、電力供給の確保を図るためにいろいろ出力調整を行うなど、ご努力をされていると伺っております。胆振管内にも、近くには伊達火力発電所がありますが、こうした状況を踏まえて、この夏の節電対策のお願いのためにということで、関係者の皆様が、実は6月11日でございますが、当町にご来町いただきましてご説明をお伺いしたところでございます。

その際お聞きしました内容では、泊発電所の1、2号機が再稼働できない場合、これが前提になりますが、この夏の電力供給力というのは485万キロワット程度にとどまるということをお伺いしております。1日最大が約506万キロワットということで想定されているようですが、安定供給をさらに行うためには、電力の使用量を約7.3%程度、特に7月、8月の電力の需要が伸びるときだそうでございますが、7.3%程度、電力の需給の抑制が必要な状況であるというふうに伺っております。

こうした説明を受けまして、役場も一つの事業所といたしましては、総務課を中心に、これまで府内の節電対策を進めてまいりましたが、さらにそれを一層進めるために、職員の皆さんからいろいろアイデアを出していただくななどして、この夏の節電に取り組むことを決めてございます。現在、進行中でございます。また、町民の皆様に対しましても、この節電に協力いただけますよう、この7月の広報で呼びかけるよう実施をするとところでございます。また、その7.3%の数字でございますが、電力に直しますと約37万キロワットということでお伺いしております。

以上でございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。ぜひ、そのような形で取り組んでいただきたいと思います。前回の一般質問では、町内での自然エネルギー利活用の可能性を、前回のときは、この平成21年度洞爺湖町地域新エネルギー・ビジョンをベースにご議論をさせていただきました。先般の町長の答弁でも、議事録を参考にいたしましたが、風力、太陽光については、業者さんと町と協議をさせていただいた経緯がありますが、地域的、日照関係等々で、なかなか難しいと。また、ジオの関係では、遠軽町の小水力発電所を例に、メンテナンスの面では、コスト面から利活用が非常に難しいというふうに述べられました。実際、そういう形でいきますと、次は地熱はどうなのかなと、独自に調べてみたのですけれども、やはり現状では、地熱の場合ですと、伊達市の大滝地区ですとか、あるいは登別市のほうがかなり有力なのではないかなと。そうしますと、もう一度、この洞爺湖町内に目を転じてみると、昨年ですか、土木学会、選奨の土木遺産にも認定されました虻田発電所がもう一度目にとまったわけなのですが、この虻田発電所を何とか再活用ができないのかなという形で考えておりました。少し調べてみると、この出力自体は、虻田発電所は最大出力が1万9,500キロワットという形になっております。ただ、今、ちょっと情報なのですが、半分近くは水位調整ということで、現実には、出力の半分以下の9,000キロワットぐらいしか稼働していないという情報があるのですけれども、実際、虻田発電所の活動状況は、町としてはどのように把握しているのか、お伺いいたします。

○議長（千葉 薫君） 室田環境課長。

○環境課長（室田米男君） 青葉にあります虻田発電所につきまして、現在、北海道電力さんの100%出資の会社、ほくでんエコエナジー株式会社というところが運営をされております。同発電所を管理されている洞爺管理所も同じ場所にありますと、胆振管内の、豊浦を含む6カ所の水力発電所を管理され運用されております。

虻田発電所のことでございますが、虻田発電所の電力量につきましては、北海道電力の運用課というところの指示によって、北海道全体の電力を調整しながら、日々、指示が行われるというふうに聞いております。主力発電所をバックアップできる施設として大変重要な位置づけをされているようでございます。当施設につきましては、先ほどお話にもありましたと、洞爺湖の水位差が0.48メートルから0.9メートル、約1メートルの範囲内ということで理解してよろしいかと思いますが、その範囲内で運用しているということでありますので、電気の使用が多い時間帯に主に運転をされているというご説明をお伺いしたところでございます。また、比較的、春と秋にかけては洞爺湖の水量が多いということもございまして、直近の数字でお伺いしましたところ、5月の電力量では、ちょっと単位があれなのですが、合計8,000メガワット、単位はメガワットです、メガワット／アワーです。1日平均にすると、25万800キロワット／アワーでございます。これはキロワット／アワーですから、キロワットに直しますと1万3,451キロワットくらいということでございます。かなり日によって差

はありますが、その範囲内で発電をされているということでございます。

また、心配される電力の需給に関しましては、こういった数字も北海道電力運用課さんのほうで、既にこの夏の需給調整の計画の中で織り込まれているということでございます。

以上でございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 今、実際、半分以下というよりは、その時々によっては出力をアップしていると。実際に、あと、この北海道電力から、平成13年ですから、この北電子会社のエコエナジーが虻田発電所を買い取ったわけなのですけれども、現在、この子会社というのは、今、課長がおっしゃったように、6地区で、水力発電所は18カ所所有していると思います。合計出力というのは6万1,027キロワットということで、洞爺管理所は5カ所ですか、豊浦、久保内、洞爺、壯瞥、虻田という形で、5カ所ですね。虻田発電所に関しては、最大出力1万9,500キロワット、洞爺発電所に関しては5,500キロワット、また、久保内発電所に関しては7,200キロワット、豊浦は3,400キロワットと、壮瞥発電所に関しては500キロワット、計、3万6,100キロワットということですね。実際、このエコエナジーが管理しているので言いますと、個々の発電所からいくと、虻田発電所が最大ということですね。18発電所の中では1万9,500キロワットというのが最高と、2番目で来ているのが、これでいくと久保内の7,200キロワットという形になっています。そういう面でいきますと、水力発電所は北海道内には18あるわけなのですけれども、以外と、知らなかつたのですけれども、この地元に、この一番近いところに一番大きな水力発電所があると。

そういう面で見ますと、やはり何とか、この町内にある既存の水力発電所の出力アップというのですか、確かに、いわゆる土木遺産にもなりましたけれども、まだまだ現役で、ばかりやつていけると。3月の定例会におきましては、企画防災課からのほうの答弁では、あのときは鈴木参事がお話をあったと思いますけれども、小水力発電では、出力を上げる場合には、1,000キロワット以下の場合だと経費が6,000万円から1,000万円かかるよということがございました。そういう面では、なかなか費用が、コスト面でかかるのかなと思うのですけれども、今、洞爺湖町の場合は国立公園というものもありますので、環境省とは非常に密接な関係にはなっているのかと思うのですが、この環境省も、最近、平成21年ですけれども、再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査というのを実施しております。その中で、中小水力発電、出力3万キロワット以下、これは、北海道内にある18カ所すべてが対象になるわけなのですけれども、この中で、ある程度導入が可能だという算式ですよね、そういうのを設定しております。これは、エネルギーの採取や利用に関しての種々の制約要因、具体的には、社会的要因ですとか建設コスト、こういったものを考慮して、エネルギーとして利用可能な資源量を算定しているわけなのですけれども、再生可能エネルギーの全量買取制度、今回から実施されていきますけれども、あるいは売電価格の期間とか、あと、技術開発の動向を想定して、そういうシナリオの設定ですとか、あるいは事業シミュレーションなどの、標準的な発電所の事業の可能性というのを算定してきていると。そういう面

で、こういうのを既に環境省が3・11以前に、そういうたポテンシャルの数式というのですか、そういうた公式を用いながら、自然エネルギーの利活用に対して取り組んでいっていると。そういうた点では、何とかですね、繰り返しになりますけれども、町からのアプローチも入れながら、既存の水力発電所の出力アップというのですか、そういうたもの、地域資源を引き出していく工夫ができないのかなと思うのですけれども、その点についていかがでしようか。

○議長（千葉 薫君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 私どもにございます水力発電所、相当歴史が古いという水力発電所でございまして、これを何とか延命措置を講じ、さらには増設できるようなことで、要望、陳情、これからしてまいりたいというふうにも思っているところでございます。

また、再生エネルギーに関して、二、三、会社のほうから、民間会社でございますけれども、私どもの町にも調査が入ってきておりました。風力の関係、あるいは太陽光発電、これは先ほど議員がおっしゃられたとおりでございまして、残念ながら、この地域、それにはなかなか適していない、他にすぐれた場所があるので、そっちのほうを優先していきたいという考え方もあったように聞いております。

ただ、有珠山という山を抱えまして、大きな地熱を持っている部分がございます。ただ、この地熱につきましては、非常に時間のかかるものということで、今いろいろ調査をいただいている部分もございます。私どもも、この地熱利用につきましては、将来、何らかの形で活用できないか、今、調査をしていただいております会社等々にも、今後も粘り強く、何とか当地域で事業が実施できるよう、要望もしてまいりたいというふうにも思っております。特に前段で申し上げました水力発電につきましては、今、日本国内が自然再生エネルギーの重要性を国民皆が思っているところでもございますので、このほどでんエコエナジー株式会社さん、あるいは北電のほうにも、これからも要請、要望活動を続けてまいりたいというふうにも考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 今、町長のほうから意気込みをお聞きしましたので、ぜひ、そういうた取り組みをしていただきたいと思います。実際、洞爺湖町の身近な地域でございますけれども、京極町においては既にプール形式の上部調整池、あと、尻別川水系の京極ダムを新設して、総落差が400メートルですか、最大出力60万キロワット、1基当たりが20万キロワットですから、この1号機が平成26年、また、2号機が平成27年、3号機が平成33年以降ということで、これは大規模な準揚水式発電所でありますけれども、こんな大きな話ではなくても、でも、お隣の町といいますか、京極町でそういうた大きな発電所ができているわけですから、そういうた点で、やはり北海道内、今まで水力発電というのはエコエナジーが所有している18基、そして今回、京極町にある発電所、水力発電、これは北電が直で管理するわけですけれども、これはかなり大きな需要があるという形になっています。そういうた点では、やっぱり北海道、この地域、胆振に関していえば、胆振、後志、このエリアというの、水

力発電、非常に大きな利活用の場所というか、地域のゾーンとしてあるのかなと思っております。

それと、そういう面で、60万キロワットの話をして地元の話をしてあれなのですけれども、1キロワットから3万キロワット、これらを、小水力というよりは中小水力発電と呼びますけれども、ぜひ、例えば、卑近な例ではありませんけれども、例えば原子力であれば1号機、2号機、そして今回、京極の場合も1号機、2号機、3号機と隣接していきます。そうすると、虻田発電所に関しても、あそこの土地がどういうふうになっているかわかりませんけれども、今使っている水路系は確かに土木遺産になっていますけれども、もし、ほくでんエコエナジーと例えば交渉しながら、横につくっていくとかという形で出力アップということもあり得るのではないかと。そういう点で、既存の虻田発電所を利用して、横に並行して、2号機発電とか、そういう営業ではないですけれども、当たって碎けろではないですけれども、北電子会社に、エコエナジーに提案していくのも本当に大事なことだと思います。

前回まとめた、これは平成21年度、ちょうど22年、長崎町長のときにまとめたものだと思いますけれども、これを何度も読んだのですけれども、洞爺湖町がどんな自然エネルギーを本当に一生懸命取り組みたいかというのがよくわからないのですよね。本当にきれいに、何か教科書みたいな感じになっているものですから、そういう点で、町長、この洞爺湖町がどこまで地域資源を引き出して生かしていくのか。また、どれくらいの量の自然エネルギーを生産して、その自然エネルギーの比率を高めていくのか、目標数値を定めるべきが、そういう目標数値、その戦略があれば、北電に行こうが、例えば目メガソーラーの某何だかバンクにいくとか、そういう意味で、こういったビジョンをですね、今の時代に合った、3・11以降の時代に合ったビジョン策定をすれば、もっと職員の方たちも動きやすくなると思うのですけれども、そういう点で、いわゆる真屋バージョンの地域新エネルギーバージョンというのですか、こういったものを作成するお考えはないものなのでしょうか。

○議長（千葉 薫君） 鈴木産業振興課長。

○産業振興課長（鈴木清隆君） まず、企業誘致という面から、産業振興課のほうからお話をしたいと思います。

まず、今までにも、洞爺湖町内につきましては、温泉排水を利用したヒートポンプ、また、リサイクルセンター花美館での生ごみの堆肥化、そして、雪を利用した雪蔵、小学校に設置されております太陽光発電など、環境を重視した事業を行っているところであります。

先ほど町長もお話ししたとおり、太陽光発電の設置用地の問い合わせにつきましては、洞爺湖町においても数件来ております。また、民間同士でも、洞爺湖町内での太陽光発電での可能性を検討しているところでもございます。また、先ほどお話ししました地熱発電につきましては、民間企業が調査されているところでありますが、議員のお話ししているとおり、いろんなところで町内の自然エネルギーを活用したソースというのはたくさんあるかと思います。ただ、先ほども、議員もお話ししていたとおり、自然エネルギーを活用した、風力、

または太陽光、なかなか、うちの地域の部分では効率のいいものができてこれないというのが事実であります。

ちなみに、メガソーラーと言われています部分での候補地の部分なのですけれども、道内でもいろいろ調査が始まっています。振興局を通じてでありますけれども、道内につきましては、地域としては二十数町村で候補を上げているところがあります。ただ、その内容を見ておられますと、必要とされる用地面積が10ヘクタールから20ヘクタール、そして、大規模な用地となって求めておりまして、その土地の取扱賃料なのですけれども、1年間に1平米で200円未満、また、買い取りという部分では、1平米で1,000円未満という形で、なかなか安い金額での取引となっておりまして、その部分で、当地域で条件の合った用地は實際にはないところでございます。

また、そういう部分で、これからビジョンというものをつくっていかないといけない、また、前回提出している資料等がございますけれども、そういう部分では、今、洞爺湖町内の特徴を生かしたエネルギーを投資の誘致につきまして、機会があるごとに企業等にはPRしていっているところであります。地域に存在する自然エネルギーを十分活用できるようには、いろいろPRはしていきますけれども、なかなかそのソースに合った、また、企業に合った部分のものがないというのが現状でございます。

以上です。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） ひとつ、とにかくプランがないと動けない、仕掛けられないというのがありますので、せっかくつくった平成21年度バージョンですけれども、新しく、ぜひ取り組みながら、3・11以降のビジョン、これも例えば企業なんかを見ると、洞爺湖町の本気度がわかるというか、実際に前回つくったビジョンを見ますと、なかなか本気度というのが読み取れないのかなと思いますので、ぜひそこら辺のところをご考慮いただきたいと思います。

次の通告に入っていますけれども、次の質問の中で、通告の中では、道内のほかの自治体では、今、投資誘致のこともありましたけれども、自然エネルギー設備投資誘致に向け、企業の呼び込みとか、また、売り込みなどが行われているけれども、洞爺湖町の特徴を生かしたエネルギー投資誘致へのどのようなビジョンを持っているかということで、重複するところがありますが、もう少し補足をさせていただきますと、実際には、今、課長がおっしゃったように、新エネルギーというのは限られてくると、洞爺湖町の利活用の中では。太陽光発電、あと、太陽熱利用、風力発電、あと、バイオマス発電、温度差熱利用、雪氷熱利用、あと、地熱、中小水力発電などがありますけれども、実際には、その投資誘致が可能なのは、既に温泉利用組合が行っておりますヒートポンプシステム、これは温度差熱を利用しているわけなのですけれども、あと、JAとうや湖で行っている雪藏、これは雪氷熱を使ったものだと思うのですけれども、あと、現実には、もう既にそれは導入済みですけれども、現実には中小水力発電とか、もし可能であるなら、森町の地熱、先般、議会で視察いたしましたけれども、あのぐらいの大きさではなくても、せめて小規模な地熱、あと、コストパフォーマ

ンスがある程度低いというか、かなり事業レベルで行けるような形であればいいのですけれども、それ以外だと、今、町長もおっしゃったように、エネルギーの投資誘致というのは、洞爺湖というのは非常に難しいのかなと、そう思います。ただ、この視点は、例えば設備投資というか、実際に企業を誘致するというハードの誘致だと思うのですけれども、ソフトの誘致、つまり、自然エネルギーと観光振興を結びつける施策、これについて、実際、この通告書で補足したのは、ハードはちょっとなかなか難しいよと、調べていったらそう思ったものですから、実際、そうすると、今度はエネルギー投資誘致というか、ソフトの面、エネルギー利活用を観光振興と結びつけるというか、そういうことが必要なのではないかと思いました。

それで、先般、議会のほうで、これは千葉議長のほうが先進地視察報告書というのを書いているのですけれども、4月に、ちょうど香川県三豊市との災害時相互応援協定にご縁がありまして、町長、議長に帯同させていただきながら、森、水、風、光など、自然エネルギーを生かした町づくり、高知県の檜原町に視察することができました。この中で、議長が報告をまとめている中では、森では環境に配慮し、伐採された森林を活用したペレット燃料を使った暖房を利用し、資源の循環利用を図っていると。さらに、光の太陽光と森の木を融合した、日本初となるライフサイクルカーボンマイナス住宅の先導事例として積極的に取り組んでいると。あと、CO₂削減効果の高い住宅の普及にも貢献されていると。風においては、2基の風車を利用し電力をつくり、売電して、その収益を利用してCO₂排出削減設備の普及とCO₂吸収源の整備を行っていると。水については、檜原川からのわずか6メートルの落差、実際そこに行つたわけなのですけれども、そこを利用して小型の水力発電にも取り組んでいると。ここでの発電量というのは53キロワット。これで街路灯などにも利用されているわけなのですけれども、この町こそ、まさしく自然エネルギーと観光振興を結びつけた取り組みの一つだと思うのですけれども、町長、檜原町を視察して、洞爺湖町の特徴を生かしたソフト面といいますか、観光振興と結びつけたエネルギー投資誘致の何かビジョンというのを、前回の視察で感じられたかどうか、ひとつお伺いしたいなと思います。

○議長（千葉 薫君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 私も檜原町に同行させていただきました。本当に、大変すぐれた再生エネルギーに以前から取り組んでおられたのだなという感がしているところでございまして、町全体が山に囲まれて、その中で歴史がはぐくみ、そしてそこにある資源をうまく利用しているなという感がいたしました。ただ、私どもの地域とそれが一体になるのかなというと、なかなかそうはいかない部分がたくさんございます。そんな中、先ほど来出ております、私どもの町には水力発電がもともとございました。それを何とか延命措置を講じながら、さらには、増設できるものは増設していただく、さらには、温泉があって、その中に地熱があるというものを最大限利用できるものは利用していきたいなと。加えて、今、北海道は、農協さんが主体でやっていただきましたけれども、雪藏で、出荷物をその中で寝かせておくことによって糖分が増す、それがまた商品価値を高めるという部分もございます。今、積み重ね

ている小さなことではありますけれども、それを順次実のあるものにやはり結びつけていく必要があるのかなと。新たに大規模なものというのは、今ちょっと頭の中には浮かんでおりませんけれども、今まで構築されてきたものをさらに伸ばす必要があるのかなというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。ほかの、他府県の自然エネルギーと観光振興を結びつける取り組みについて、いろいろ調べていったのですけれども、その中では、小水力発電のモデル導入をすることによって、これが環境教育のモデル教材として売り込んでいるとか、あるいは、修学旅行などの誘致を検討しているということが事例としてございます。また、風力発電、バイオマス発電を見せることによって、環境意識の高い旅行者ですとか学生を誘客にしているという事例がございますけれども、では、この私どもの町、洞爺湖町ではどうかといいますと、例えば雪氷熱を利用した雪藏ですとか、あるいは温泉利用組合の温泉排水熱を利用したヒートポンプなど、実際に稼働しているものはございます。そういう点で、自然エネルギー利活用と観光振興という形でいけば、この二つの施設を仮に修学旅行生に見せるというのですか、そういう点で、施設と修学旅行を結びつけたエコ修学旅行というのですか、こういったものも、これは恐らく観光振興課が企画したりご支援しながら、先般、修学旅行誘致で東京とか大阪とか行っていると思いますけれども、たしかそういう話を聞いたのですけれども、いずれにしても、修学旅行誘致で振興課あるいは観光協会等と組み合わせながらしていると思うのですが、今回それにまた洞爺湖町から出向で、専務理事も観光協会に置いているわけで、そういう点で、せっかくこういった自然を利活用している施設がありますので、そこを、ヒートポンプの、あそこの温泉利用組合のところも非常に狭いですけれども、ただ、あえて時間を限定させてとか、予約ですとか、先般、町長と帶同させていただいたときも、樺原町なんかはもう、商工会を通してということで、非常にそこがビジネスになってしまっていると。地域活性化の一つになっているわけですよね。そういう点では非常にいいパターンを見させていただいたのですけれども、実際にこういった利活用の中で、修学旅行誘致というのですか、そういう組み合わせというのはできないものなのでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○議長（澤登勝義君） ただいまご提案のありました2施設でございますけれども、現在行われております修学旅行誘致につきましては、この環境問題を通じたエネルギー対策としての誘致内容ではございません。ただ、修学旅行の誘致の一つのソースとして利用できないかという問題については、これまで、その施設での見学等というものについては、いろいろな同業者ですか行政関係ですかという方々については視察対応をされているという実態は把握してございますけれども、学生さん方の修学旅行ですか、大規模な視察団体についての受け入れという部分については確認はしてございません。この問題については、そういうことが可能かどうか、相手のあることでもございますので、ただいま言われましたご提案につ

いては、ちょっと確認をしなければ答弁できないような状況でございますのでご理解いただきたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） ぜひ、中学生、高校生というのはちょっとなかなか難しいのかなと思うのですが、小学生のような純粋な、すぐ、エネルギーとか、素直な年代には、雪藏ですか、ああいったヒートポンプなんかを見ますと、非常に勉強になるのではないかと。教師なんかも特に勉強になるのではないかと思うのですけれども、ぜひご検討いただきたいと思います。

もう一つ、エネルギー投資、いわゆるエネルギー投資誘致、ソフトの面でございますけれども、ご提案がございます。それは、ことしはちょうどロンドンで開催されます、オリンピックイヤーですけれども、ちょうど4年前、北京オリンピックがあった2008年というのは、洞爺湖サミットが開かれた年でございます。恐らくこの議場にいる多くの皆様は、サミット関係の関係者だと思いますけれども、私は当時まだ、地元洞爺湖町にまだUターンせず、札幌の片隅から北海道洞爺湖サミットの開催前後を、毎日、テレビ、新聞、インターネットで、報道を食い入るように見させていただきました。とにかく札幌の片隅から、このふるさと洞爺湖町が脚光を浴びて、大変誇らしく思って眺めて、ロンドンのオリンピックの話を聞くと、4年前、そういうえば北京であったなど、じゃ、洞爺湖サミットもあったなという形で、まだあのときは、自分は札幌にいたのだなと思いながら記事を見させていただいたのですが、実際に帰ってきました、遠くから見た洞爺湖サミットと、祭りが終わった後みたいな形で、洞爺湖サミットが風化しているのにはちょっと感じているのが現実なのですけれども、たまたま北海道洞爺湖サミットを行った2008年なのですが、そのときに、某大手新聞のビジネスフォーラムに僕は参加させていただきました。そのときの講師が日本経団連の御手洗会長さんが講師だったのですけれども、そのときに、ちょうどサミットが開催される、たしかあれは7月7日か8日ですよね。ですから、6月だったかにフォーラムがあったのですけれども、その中で、御手洗会長がこんなことを言っていました。今回の北海道洞爺湖サミットというのは、地球温暖化対策が主要テーマの一つだから、サミットを契機に、4年に一度ぐらい、洞爺湖で世界環境大会を開いてはどうかと、そういうことを、某大手といいますか、読売新聞で行ったのですけれども、その中で会長がおっしゃっていました。どうして御手洗会長がそんな話をしたかといいますと、会長はキャノン出身ですからカメラをやっているのですけれども、ドイツのケルンでは、4年に1回、世界のカメラメーカーとかディーラーが集まって、5日間国際会議を開催していると。ホテルも満室、レストランも満席、地域も潤っています。そういった面で、北海道、日本だけでなく、世界の環境大会、コンベンションですね、見本市などを4年に1回、大々的にやるのは、準備期間が4年が必要だと、何か選挙みたいでけれども、そういう面でそういう話をしていました。その中で、会長が言ったのは、驚いたことに、現在のドイツというのは、カメラメーカーはないそうです。ないですね。ただ、コンベンションだけは4年に1回続いていると。そういう点で、コンベンション、

見本市だけが続いていると。洞爺湖町も、こういった土木遺産の水力発電、あるいはビジターセンターにおける太陽パネルがあります。そして、ヒートポンプがございます。洞爺地区には雪蔵もあります。4年に1回というのは長いのですけれども、2年に1回ですとか、そういう環境と観光の取り組みという点で、見本市というのを開くというか、そういうビジョンは持てないのかなと思って質問をしたのですけれども、いかがなものでしょうか。

○議長（千葉 薫君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 非常に夢があって、すばらしい案かなというふうにも思っております。ただ、私どもの町は残念ながら、そんなに裕福な町でもなかつたと、それで、平成19年度まで、たしか洞爺地区で行われていたビエンナーレ事業、これは2年に1回の事業としてやっておりまして、1回に大体3,000万円程度の経費がかかっていたと。その経費が、残念ながら捻出できなくなってしまって、休止状態に今あるというふうな現状もございます。ただ、話としては非常におもしろい話でもございますので、ぜひ、内部で十分検討をさせていただきたいというふうにも思っております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 一つのご提案でございますが、突拍子もないことかもしれませんけれども、夢ではないのですけれども、そういう形で、カメラメーカーが既にないところでコンベンションが生き残っているとかですね、非常に僕も、4年前の話でしたけれども、ふと、資料を調べているときにこのお話を思い出しまして、今回の一般質問の提案に上げたのですけれども、ぜひご検討いただきたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 下道議員、ちょっと、先ほどからもう1時間ぐらい経過するのですけれども、前質問者から。

ここでお諮りします。

このまま続けてよろしいですか、休憩しますか。

休憩に入ります。再開を4時5分とします。

（午後 3時55分）

○議長（千葉 薫君） 再開をします。

（午後 4時05分）

○議長（千葉 薫君） 一般質問を続けます。

9番、下道議員。

○9番（下道英明君） それでは、一般質問後半戦に入らさせていただきます。

次は、観光振興のスポーツ観光、いわゆるスポーツツーリズムとジオパークの二つの視点からご提案、今後の取り組みについてお尋ねさせていただきたいと思います。

昨年のちょうど12月の定例会でも、観光振興をテーマに一般質問をさせていただきました。観光振興とは、言いかえれば、自治体が、地域の皆さんのが収益を生み出す環境づくりの手助けをすると、そういうお仕事だという定義を持たせてお話をさせていただきました。観光地

を抱える洞爺湖町は、観光振興を真正面から取り組んでいくという、取り組まなければいけない、ずっと続けていかなければいけない宿命があると、そういうお話をさせていただいたわけなのですけれども、最初に、洞爺湖マラソンを中心に、スポーツ観光の取り組みについてお尋ねさせていただきます。

以前もお尋ねしたのですけれども、そのときは、昨年12月の議会では、警察から許可をいただき、制限時間を30分延長して5時間半になったと。参加者が多くなるような改善策、努力をしていきたいと力強い答弁が、今、専務理事になっています佐々木参事のほうからありましたけれども、今回38回大会では、エントリーが初めて6,000名を超えて、約6,500名エントリーしました。私も走りましたけれども、残念ながら27キロで挫折して、収容バスに乗りましたけれども、今回、観光振興課が中心となった事務局の視点から、第38回の大会についての運営上よかったです、悪かったですをまずお聞かせください。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○議長（澤登勝義君） 洞爺湖マラソンの内容等につきましては、今回の行政報告のほうでも申し上げているところでございます。それで、それとは重複する部分があろうかと思いますけれども、総括ということでお話をさせていただきます。

議員がおっしゃられましたとおり、今大会につきましては、初めて6,000人を超える6,436名の参加をいただきました。それで、完走率ということで、全体を通して30分延長したことによりまして、95%の完走率となってございます。これは、参加者の方々に広くアンケートをとった結果、皆さん方、大変喜ばれておりまして、初めて完走できたという方々から多く寄せられたという状況でございます。また、今回、団体として、台湾のほうから18名の団体参加者を得ることができます。この方々については、前夜祭のほうにも参加いただき、大会全体の中で花を添えていただいたというような状況でございます。また、この大会につきましては、NHKのほうで45分の番組の収録ということで、BS1のほうになりますけれども、のほうで、今月24日日曜日9時から45分間の放映がされるということでございますので、ぜひ見ていただきたいなというふうになっております。

それと、大会全体を通して、これまで大会役員ということで、慢性的な役員不足というのが一つの大きな課題でございましたけれども、今回初めて、江別市の酪農学園大学から3回生、4回生、30名のボランティアの協力をいただいて、2日間従事していただいて、他の事務局、それから役員の方々から好評をいただいたという状況でございます。

ただ、先月の230号の通行止めによりまして、札幌圏から来られる方々については迂回をしてこなければならない、高速道路の利用ということで、37号から230号にかけてのトンネル内、インターチェンジから洞爺湖温泉のほうに入るトンネル内で渋滞が、時間的な部分ではございましたけれども、発生したと。30分以上の渋滞が発生したというところが、当初予定外のそういう事案が起こったというところが総括として挙げられているところでございます。その総括を踏まえまして、次回開催に向けていろいろな改善点等が出されております。これは後ほど議員各位のほうにも、今回の大会を通じての報告書というものを提出したいと

いうふうに考へておるところでございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 完走率が95%ということで、一瞬ショック受けまして、3年ぶりにフル、初めて今回落としたのですけれども、5%に入ってしまったかと思いますけれども。

話を戻しまして、今、課長のほうからありましたように、ちょうど私のほうにもこの報告書ですか、いただいております、陸協にも自分は入っているものですから、報告いただいたのですが、この38回の報告書を読ませていただきました。その中で、いろいろ、交通対策ですとか交通規制の結果、反省の記述が出ておりました。その中で、次回から臨時駐車場のお知らせを徹底して、大会当日、参加者の車が一台でも臨時駐車場に駐車するよう検討して、洞爺湖温泉街の路上駐車を解消したいですか、あるいは、次回から高速道路で大渋滞になるようであれば、高速をおりた信号機に警察官を配置するなどを検討していきたいと。また、今回は、今、課長がおっしゃったように、中山峠の通行止めの特殊要因があったと思いますので、そういう面がありますけれども、その中で、臨時駐車場の使用状況というのをこの報告書にも書いてありますけれども、温中グラウンドで370台ですか、旧翠明荘で160台、あと、西山散策路南口空き地で240台、計777台ということで、随分縁起がいい数字なのですけれども、その中で、当日の観客の動員数をちょっと調べさせていただきましたけれども、その中で、ホテル、旅館宿泊者数、JTBあっせんと、宿泊者数ほかでいきますと、計1,280名、また、臨時バスのほうでいきますと、これは有料ですけれども、札幌駅発、千歳空港からですね、前日の場合の手続ですね、そのときに123名ですか、また、当日、札幌駅からは178名ということで、有料のバスで300名近く来ているという状況でございます。そういう点で、マラソン実行委員会が掌握している、把握しているだけでも、相当数の人たちが、今回30分延長ということでエントリーしてきているわけなのですけれども、また、マラソンランナーの多くが購読している雑誌があります。「ランナーズ」という雑誌ですけれども、これなんかを見ますと、2007年、2008年、2009年あたりは、洞爺湖マラソンは開催ベスト100のうちの大体11位から15位までなのですね。最近はベスト順位をつけないということで、ベスト100選という形で大きくしていっているのですけれども、その中で、昨今のマラソンブーム、今、課長がおっしゃったように、NHKですかBSが特番を組んだり、また、「クローズアップ現代北海道版」でも、30分の、マラソンと経済効果ということでうたって、30分枠で7時半から放映していたり、非常に注目度が増しているのが現状だと思います。ただ、その中で、今、課長がおっしゃったように、いろいろな、交通整理の問題、あるいは多々ありますけれども、直球の質問になりますけれども、コースの問題ですか、あるいは駐車場の問題、ボランティアスタッフの問題、あと、臨時トイレの問題等々ありますけれども、非常に障害が多いのですが、しかしながら、来年は39回、そしてまた再来年は40回の記念大会、オールドボーアイレースから来てですね、連綿とつながってきて、やっと40年ということでなってきているわけなのですけれども、この40年という記念大会の中で、通告書にも書いたのですが、ぜひ、いろいろな困難はありますけれども、まず、大風呂敷ではないです

けれども、エントリー1万人とかですね、あと、仮にマラソンのベスト100選ということではなくて、洞爺湖すごいなということで、ベスト5ぐらいの好感度ナンバーワンマラソン大会を目指すような、そんな形で、実際にそういう挑戦というのですか、そういうものができるのか、そういうことをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○議長（澤登勝義君） ただいま、議員のほうから、1万人規模を目指すような大会、40回大会に向けてというご提案がございました。現在のマラソンブームによって、年々、右肩上がりの傾向にあるのかなという感を持っているところでございます。現時点で、昨年より760名ぐらいの増員が図られたと。これを1万人規模にする手だてという提案でございますけれども、これまで行っております2キロ、5キロ、10キロ、フルマラソンというようなのが洞爺湖町で開催している洞爺湖マラソンの種目の内容でございます。多くの参加者からの意見ですとか要望という中で、ハーフマラソンという要望も多く聞こえているところから、増員を図るために、種目的にハーフマラソンなどの導入についてという部分も、一応実行委員会の中では検討されている一つの事案でもございます。ただ、それを実施するに当たって、先ほども、現状の課題の中で述べさせていただいたように、大会役員の関係、それから駐車場問題、コース上の交通規制、これは当然湖畔一周を走る道道、国道の通行止めの区間という部分で、広範囲にわたるというような問題がございます。そういったところで、逆に大会運営上の安全対策、今大会については大きな事故もなく、無事終了いたしましたけれども、一昨年につきましては、自然災害で、がけ崩れによって、大会当日の事故ではございましたけれども、選手の方々に告知が完全にできなかったというような反省も踏まえまして、コース上、道路管理者であります北海道並びに警察のほうと事務局と、数回にわたって、コース上の点検、確認をして実施をしたということもございますので、大会規模を大きくするためには、そういうような、各大きなハードルもあるというところから、慎重に対応していくかなければならないというふうに考えているところでございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 今、課長のほうからいろいろなお話ありましたけれども、大変困難な事情であると思うのですが、観光振興課を窓口としながら、エントリー1万人プロジェクトというのはなかなかちょっと難しいというのですか、陸協あるいは体育協会の既存団体を巻き込みながらということなのですけれども、洞爺湖マラソンというのは非常にもうブランド大会になっているのですよね。洞爺湖マラソン終わって、今月の3日なのですけれども、ちょうどまた千歳JAL国際マラソン、懲りずにまたフルマラソンを走りまして、ハーフで撃沈されたのですけれども、これ、どうして今回行ったかといいますと、今大会が初めて1万2,000人を超えるました。それで、今回、この千歳JALは1981年の大会から第32回ということで、そうしますと、洞爺湖マラソンのほうがまだ古いのですけれども、これはJAL、航空会社が冠になっているのですが、例えば一つの考え方なのですけれども、もう既に洞爺湖マラソン自体がブランド化していると、そういう中で、冠をつけたスポンサー大会、ある

いは、具体的には「〇〇〇洞爺湖マラソン」とかですね、そういった民間のスポンサーを募集して、実際に千歳マラソンの場合は、自衛隊はそばにありますし、かなりお手伝いしていますけれども、やはり航空会社が全面バックアップしているという形がございます。そういった点で、例えば洞爺湖マラソン、主催者が、今回のマラソンの場合は、陸協と壮瞥町も絡んできますけれども、例えば、この洞爺湖マラソンの前に企業名を入れるとか、いわゆる命名権ですよね、そういった面で、民間のスポンサーを募集して、大会の命名権を売って、その大会運営の補助をしていただくとか、こういう形にして、企業とのタイアップを行いながら運営を、洞爺湖マラソンを活性化していくと、新たな時代にしていくと、そうすることによって、1万人というか、下手したらもっといっててしまうのではないかなど。非常に今回のJ A Lの千歳のマラソン大会も、受付するときにいろんな企業が来て、もうすごいのですね、宣伝を、ブースに対して。そして、主催の航空会社だけではなくて、いろんな会社が宣伝といいますか、企業イメージアップということで、もうすごいのですよ。走る前から、何か、就活の会社説明会に来たような感じになるぐらい、企業が一生懸命なのですね。たまたま5年前に東京マラソンの第1回目を私は走ったのですけれども、そのときに、受付が東京ドームだったのですけれども、東京ドームでも完全にブースが、企業、ナイキですとか、いろんな、企業名はあれですけれども、非常に、かなり民間のスポンサーが入っていまして、一生懸命宣伝しているのですよね。だから、マラソン大会の受付に来たのか、何か企業の説明会に来たのかわからないような状況だったのですけれども、それぐらい、今もうマラソンというのは一つのビジネスチャンス、地域交流、地域活性化の一つの大きな装置になっているのですよね。そういった点で、これから例えば職員の話が休日使ってやるとか、お手伝いしていくとか、あの人は来たけど、この人は来ないとか、そういう格差がなく、やっぱりこういう命名権を売って、企業、民間の力を使って、そろそろ、立ち上げたのは洞爺湖町と壮瞥町、旧虻田町と洞爺村と、三つの洞爺湖を囲む自治体がやったとは思うのですけれども、これからは、そろそろつないでいくというか、そういった点で、民間のそういうお知恵を使いながら、骨太の大会運営の組織づくりというのが、この40回大会を一つのマイルストーンといいますか、目標としてできないのかなど、そういうことを思って質問をしたのですが、いかがなものでしょう。

○議長（千葉 薫君） 澤登觀光振興課長。

○議長（澤登勝義君） 先ほどの私の答弁、後退的な答弁というお話もございましたけれども、今回のイベントに関しまして、実は洞爺湖温泉街でのどのような影響があるのかということで、各ホテル、旅館のほうからの宿泊関係に結びついた数字取りをしてございますので、ちょっと紹介をさせていただきたいと思います。今回、大会前日の洞爺湖温泉における稼働率については81.2%、人数的には1,600名余りでございますけれども、うち、イベント、大会のほうの関係者ということでカウントしていっている数字が761ということで、全体の47%です、前泊。大会当日の宿泊として、全体のうち40%の稼働率がございまして、これは、うち、関係する方々の宿泊ということで135、数字的には14%ぐらいということでございまし

て、大会当日、前日だけではなく、複数の連泊というのが一つの特徴になってきているのかなというところで、そういうスポーツイベントという部分で観光振興に大きく寄与している部分であるという認識であります。

それから、今回、私自身も、観光振興課が事務局となって行った初めての大会でございまして、最初のつくり上げから終了までを通じて、かなり課題、ハードルといいますか、問題なども含めて、これはやわな事業ではないという認識を持ってございます。ただ、当然、あと2年後には記念大会ということで、これはやはり盛り上げなければならないという部分で、議員ご提案の冠をつけるその大型スポンサーを初め、ぜひ、洞爺湖マラソンの40回大会に向けて知恵を絞ってまいりたいと。これは実行委員会組織で行ってございますので、事務局だけではなく、いろいろな機関のご協力なしには到底かなうものではございませんので、その増員も含めて、そういう対策がとれるように前向きに考えて、方策と手立てを進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 洞爺湖マラソン大会も、最初の出発点がオールドボイマラソン大会から始まりまして、38回を迎えたと。来年、再来年は、いよいよ40回の節目の年になるということから、何とかやはり大きな大会にしたいなという気持ちがございます。私も実行委員会のほうに、課長だけでなく私のほうからもお願いしようと思っておりますけれども、何とか40回大会は大きな大会にしたいと。今、議員ご提案のとおり、隣の町、雪合戦は大きなスポンサーがついております。それから、これも隣町のホタテ耳づり大会、これも大きなスポンサーがついております。私どもの町は、町独自でというか、当時、出発したときには、3町村協力体制で、行政が主体となって実行委員会を立ち上げ、その中でやってきた大会でございますけれども、今本当に大きな大会は、一つ一つが冠がついているというふうな状況下でもございます。ぜひそういうふうに実現できるよう、これから知恵を絞ってまいりたいというふうにも思っております。

それと、来年になるか、再来年になるか、ひょっとしたらできないかもしれませんけれども、今ちょっと一つお願いしているのは、現役は引退いたしましたけれども、有名ランナー、この方に、ぜひ、洞爺湖と一緒に走っていただければなというふうな思いもございまして、これはそれぞれの機関のほうに、ただいま要請、お願いをしているところでございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） ぜひ、このマラソン大会、スポーツ観光、スポーツツーリズムですね、非常に大きな成長の分野だと思いますし、観光振興の中では大きな位置を占めていますので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

それでは、最後の質問に移ります。きょう、ちょうど、先ほど期せずして隣の防災ホールではJICAとCemIですか、防災について会議をやって、先ほど、昭和新山の主治医でいらっしゃいます岡田先生とも廊下でお会いしたのですけれども、お会いしながらですね、課長も忙しいと思いますけれども、最後の質問に入らせていただきます。

まず最初に、通告にもございますけれども、通告のほうでは、ジオパーク推進課を設置して、ジオパーク国際ユネスコ会議に参加した中で、観光振興の観点から、今後どのような取り組みに重点を置くのかお伺いしたいというふうにありましたけれども、その中で、町長、まず、ジオパークの国際ユネスコ会議に参加した中で、今回、今後の取り組みの中で参考になったところがあれば、ぜひ最初にお聞かせいただきたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 今回、島原のほうで、日本で初めてジオパークの国際会議が開かれました。まず、前段、初日に日本ジオパークネットワークの総会がございまして、私もそちらのほうに出席をさせていただきました。また、全国、世界大会におきましては、非常に、欧州、ヨーロッパ、そして中国、非常に取り組みが進んでいるなという感がいたしました。特に欧州のほうについては、ジオパークそのものが、日本で言いますと、月曜日から金曜日までは一生懸命仕事をすると、そして、土曜、日曜になると、今住んでいる自分のご自宅から田舎のほうに出向いていって、そして田舎のほうで民泊をするのか、あるいはキャンプをするのか、非常に休日をみずからが楽しんで生活をエンジョイしているのだなと、その中の一つに巡っているなと、これは、今までの国民性といいましょうか、そういうふうなものが非常に植えつけられているのかなという感がいたしました。

特に、中国について、中国というよりもアジア圏については、まだその歴史が浅いのかなと。いわゆるそこの地質、資源等をうまく世にアピールしているのだなという感がいたしました。

そんな中、私ども日本国内のジオパークについては、ややもすると、資源を何とか有効利活用していこう、それを観光資源に結びつけていこうということでございますが、まだまだやはり日が浅いなという感がいたします。その一つには、そこに住んでいる方々の協力体制というか、そういうものがなかなか、今現在は、まだまだ世界と比べると差があるのかなという感がいたします。特に日本の場合には、学者、行政、これが主体性を持って、そのジオツーリズム、ジオパークを何とかPRしているのが現状かなと。今、世界の取り組み、そして、日本ジオパークの取り組みの中でも、特に日本ジオパークは、地域の方々をいかにこの公園の中に取り込んで、そこに住んでいる方々が地域の財産、資産だよということを認識し、また、みずからがPRして歩くという姿が、徐々にではありますけれども、その輪ができてきているのかなという感がしますけれども、私どもの地域は、まだまだ本当にこれから頑張っていかなければならぬかなという感がいたします。

それと、世界のジオパークについては、資金的には、やはりそれなりの資金援助といいましょうか、民間企業からの援助、あるいは国からの援助があるようにも聞いております。残念ながら、日本のジオパークについては、国からの援助は一切ございません。それで、何とか民間企業からも協賛金をいただけるようなシステムづくりをしないかということで、ようやく今年度から本格的に動こうということでございますけれども、まだまだやはり、日本は世界から比べると、そういう面ではおくれているなという感がいたしました。早くにやはり

数をふやしながら、そして、ある程度の国内でのきちんとした地位を確立しなければならないかなというふうにも感じてきたところでございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。今回、ジオの推進協議会事務局が壮瞥町から当町のほうに移ってきたわけなのですけれども、その関連から推進課が新設されましたけれども、協議会としては、当然、再認定の活動というのは当然ですけれども、既に新聞紙上で報道されていますように、ことしの目玉として、ジオの恵み、食を発信するとありますけれども、発表できる範囲で結構なのですけれども、課長のほうから取り組みについてお示しください。

○議長（千葉 薫君） 武川ジオパーク推進課長。

○ジオパーク推進課長（武川正人君） 今、会長のほうから、ジオパーク国際ユネスコ会議についてお話をございました。私も、日本で初めての開催となるということで、会長とともに参加をしてきたところでございます。今回につきましては、31の国や地域から地質学や火山、観光教育などの専門家約500人のほかに、一般の参加者の方も5,300名ほど参加したというふうに伺っているところでございます。印象に残りましたのは、基調講演に引き続いて行われましたジオパークと観光フォーラムがございました。そのときに、パネリストが、ジオツアーハンズ学びとか体験の旅として新しい可能性があるというような発言があったところでございます。それから、会場の外では、島原のジオパークの特産品を一堂に集めましたジオマルシェが開催されておって、さまざまなグルメが販売されているということで、ジオの資源が多角的に活用されていると、これを目の当たりにしてきたということでございます。

私どもの取り組みの重点としては、2点考えてございます。1点が、世界ジオパーク登録市としてのレベルの維持と継続的な土台づくりと、これはもう、来年控えております4年に一度の世界ジオパークネットワークの再審査、この節目を迎えますということで、登録要件を満たすための取り組みを重点的に進めるというものです。さらに、ジオサイトを保全、保護する一方で、それらを防災、減災教育に活用すると、こういう取り組みにも力を入れたいということでございます。

ご質問の部分、2点目の重点ですけれども、これが、ジオパークが有する資源活用と地域、構成市町の連携強化ということを考えているところでございます。といいますのは、ジオサイトを中心として、いろいろな地域資源を結びつけた観光、いわゆるジオツーリズムというのがジオパークの重要なアトラクションの一つと言われております。こういうことから、ジオパークの圏域全体で、既存のフットパスコース、あるいは、食の魅力を高めていくということが非常に重要なポイントになるというふうに考えてございます。

新聞報道に出ておりました部分で申し上げますと、ジオパークを構成する要素というのは、地形とか地質だけではないというふうに考えております。自然が長い時間をかけてつくり上げた土やその土地ならではの気候条件、これから生まれた地元の農産物、あるいは海産物というのは、立派なジオパークの構成要素であるというふうに考えているところでございます。こういうことから、6月11日に開催いたしましたジオパーク協議会の総会におきまして、

一つは、地域防災教育の促進、そして、ジオツーリズムの普及啓発、そして最後に、食による地域連携を推進するジオの恵み普及促進の、この三つの施策を柱とする事業計画案を提案し、ご承認をいただいたということでございます。しかし、資金的なことがございまして、現在、北海道の地域づくりの総合交付金、これをこの事業費に見込んでございまして、来週早々に、これは民間の方も審査に入っているということで、金融関係の方というふうにもお聞きしておりますけれども、プレゼンテーションをした中で採択を受けるというような厳しいハードルがございますけれども、何とか進めたいということでございます。具体的には、現在考えておりますのは、ピザ、それからホットサンドのパン、これらについては、せっかく世界登録をされたということ、あるいは、地域にすごいいい食材があるのでけれども、組み合わせ的にまだ、非常に大きな可能性を持っているというようなことがございますので、構成ジオ協の監事会レベルではこの提案をして、おおむね了解をいただいているところがございます。ジオ圏域の食による特性を強調するということは、その地域の生活、文化等の価値を再認識する運動でもあるということで、経済活動でもありながら、社会意義を帯びるものだというふうにも考えていて、強力に進めていきたいというものでございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 推進課が設置されて、まだ間もないですし、ぜひ、これから取り組みを、食ということでございますので、ぜひ全面に押し出して頑張っていただきたいと思います。「しあわせのパン」ではなくて、しあわせのピザということで、ジオ関係で取り組んでいただきたいと思います。

もう少しちょっと突っ込んでいろいろなお話ししたいのですけれども、まだまだ手探りの中で、事務局が移ったということですので、次回に合わせていきたいと思いますが、特にジオパークにつきましては、防災とか教育との関係が非常に密接につながっていると思うのですが、最後の質問なのですけれども、教育長、このジオパークの推進課がこちらのほうに設置されて、その中で、ジオパークと防災、ジオパークと教育という観点から、どうしても、昭和新山、有珠山ということで、ジオというと、壮瞥町のほうはどうしても何か色濃くイメージとしては、ほかの人はないのかもしれません、自分なんかは、ジオというと、まず壮瞥が主で、洞爺湖町は従かなという、そんなことはないのかもしれません、町民の方から聞きますと、まだまだジオパークについて温度差というのですか、あろうかと思うのですが、今回、推進課がこちらのほう、事務局がこちらに来ましたので、そういった点での、防災と教育という面で、教育長から、こういうふうに連携しながら子供たちに普及させていきたいということをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 綱島教育長。

○教育長（綱島 勉君） ジオパークの事務局が当町に来たということもさることながら、従来から、町長からも大分、教育サイドで積極的にジオパークの町民の浸透といいますか、その上では、特に子供たちが、より広く、深くかかわることが、町民の皆様、家庭にもはね返っていくという部分がありまして、指示をされているところでございますけれども、学校現

場では、従来から地域を学ぶ学習といいますか、ジオパークに限らずですね、地域学習というものはそれぞれの学校で進めているわけでございます。なかなか従来と違って、23年度からの新しい学習指導要領が、時間的な余裕という部分では、従来よりはないと。その中でも、23年度末から各学校の校長先生に、何とか従来にも増してジオパークの中には縄文の文化も含めて、地域学習を積極的にできれば、洞爺湖町の〇〇小学校の何学年は地域学習について毎年、担任の先生がかわったり校長先生がかわっても、それが継承されていくというような形で、ジオパークも含めて地域学習を進めてほしいと。その中には、議員からお話をあった、有珠山という山を抱えている町でございますので、防災教育も含めてお願いをしているところでございますので、24年度、23年度以上、学校現場でも前進をしていただけるというふうに思っておりますし、教育委員会としても積極的に地域学習の中に推進をしていただきたいというふうに今後も進めていこうと思っております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） いろいろ本日はご提案させていただきました。一步一步、皆様と一緒に前進していきたいと思います。

これで、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（千葉 薫君） ご苦労さまでした。これで、9番、下道議員の質問を終わります。

本日の一般質問はこれで終了いたします。

◎散会の宣告

○議長（千葉 薫君） 以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

これで本日は散会いたします。

ご苦労さまでした。

（午後 4時46分）